

また、平成26年度は、避難訓練を実施した後、学校で炊き出し訓練として実施しました。東日本大震災以降、日本全国で津波からの避難訓練や炊き出し訓練、避難所体験などさまざまな訓練がされています。一時は飯盒炊爨も実施する学校が減少していましたが、今後は炊き出し訓練の意味合いで実施するところも増加してくると思われます。

11 避難訓練

昭和21年の南海地震では、地震被害はもとより東日本大震災と同様に津波による被害も甚大でありました。

しかし、70年以上年月が経過し、世代もかわり津波への危機感も薄れつつありました。しかし、東日本大震災の津波被害はマスコミの映像等で生々しく世界中に伝えられました。津波の怖さを日本国中が実感したところです。

立中も「まずは高台に」を合い言葉に避難訓練を実施しています。また、隣の保育所と合同で裏山へ避難する訓練を実施して4年目になります。幼児の避難は保育士だけでは困難なところがあります。中学生としてできることを考えながら、自助・共助できるよう毎年訓練を繰り返しています。

なお、火災を想定した訓練も7月に実施しており、煙対策としてタオル、逃げ遅れたときの呼びホイッスルを配布しており、常に机の中に常備し、訓練の折に自主的に持って避難することが定着しつつあります。



12 立江中学校区人権教育推進協議会

立江中学校区は、3小学校、2幼稚園、1保育所、立江公民館・櫛淵公民館・芝田公民館や各地区の協議会と連携して人権教育推進協議会を組織しています。年2回の会を開催しています。地区の歴史や各学校や公民館、幼稚園、保育所の人権に関する取組を発表し意見交換を行っています。「一人の百歩より百人の1歩」をめざし、地域の幅広い人と人権について考える会となっています。

